

令和2年11月6日

# 南の風 For Junior 18

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

今回は、場面に応じたパスの出し方についてです。

『いつ、どんなパスを出したらいいのか』ということです。

選手の皆さん、パスミスが起こる場面というのはどんな時でしょう・・・・・・？

パスミスが起こる場面は二つです。

## ①パスを出した時、レシーバーに到達するところをカットされる。

- ・ オフェンスリバウンドから、前を走る味方へのパスをインターセプトされた。
- ・ 自分がドライブでペイントを攻めた時、ヘルプに捕まり外の味方にパスを返そうとした時にカットされた。
- ・ パスを逆サイドに展開しようとしたところを読まれてしまいカットされた。

## ②パスを出そうとした時に、自分についているディフェンスに出所をカットされる。

- ・ 前にロングパスを出そうとした時、自分についているディフェンスにカットされた。
- ・ アウトナンバーの攻めで、相手ディフェンスが自分方に寄ってきたので、パスを味方に出そうとした時にカットされた。

いずれの場合も状況把握のミスといえます。

詳しく見ていきます。①②に共通していることは自分の味方だけを見てプレーしている（パスしている）ということ、つまり相手ディフェンスの確認不足です。

やるべきことは、

- ☆ ボールを受けた（取った）瞬間のやるべきこと（パス限定とします）は、ディフェンスがボディアップしていれば、出所をカットされないように瞬時にトルソーの外からパスできないか考えます。
- ☆ パスが到達するレシーバーだけ見てパスしてしまうと、相手に読まれてカットされる確率が上がってしまうので、ディフェンスの位置確認をしっかりとすること。

ということです。

では『いつ、どんなパス』を出したらいいのでしょうか。例を挙げます。

◇ ボールを受けた瞬間に、できるだけモーションを小さくして出す。

ボールを受けた瞬間にパスされると、ディフェンスは対応が遅れます。さらにクイックやノーモーションで出したり、パッシングウインドーから出したりできればベストです。

◇ ボールを受け、すぐにパスできない状況であれば、ボールの位置を素早く変えたり、ピボットをしたりしてディフェンスにパスを読まれないようにします。レシーバーが離れていれば、オーバーヘッド、片手プッシュ、フックパスを使います。近くにカットしてくる選手へのパスは、ポケットパスやディッシュパスが有効です。

どんな場合でも、レシーバーとの連携が必要です。レシーバーはボールミートすることや、マークを外す努力を忘れてはいけません。常にツーウエーでタイミングが合うように心がけてください。